

江崎グリコのルーツが見える 江崎記念館

〒555-8502
大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号
JR東海道本線 塚本駅より徒歩16分
JR東西線 御幣島駅より徒歩18分
予約・お問い合わせ(平日の10:00~16:00)
TEL 06-6477-8257

【完全予約制】
前日(開館日)までにご予約が必要です。
ご見学は以下の時間帯(1日4回)の入替え制です。
①10:00~11:00 ②11:30~12:30
③13:00~14:00 ④14:30~15:30
開館日:月曜~金曜
第1・第3土曜日
※休館日:第1・第3以外の土曜日
日曜・祝日・お盆休み・年末年始
※臨時休業する場合がありますので、予約時にご確認ください。



<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/ezakikinenkan/>

わくわくファクトリー グリコピア神戸



ご見学の予約
グリコピア神戸 **予約制**
お問い合わせ
TEL 078-991-3693
※見学には予約が必要です。
電話受付時間 開館日の9:30~16:30
(休館日:毎週金曜日／お盆休み／年末年始)

〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台7丁目1番
<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/glicopia/kobe/>

わくわくファクトリー グリコピア・イースト



ご見学の予約
グリコピア・イースト **予約制**
お問い合わせ
TEL 048-593-8811
※見学には予約が必要です。
電話受付時間 開館日の9:00~16:00
(休館日:毎週金曜日／お盆休み／年末年始)

〒364-0013 埼玉県北本市中丸9丁目55番地
<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/glicopia/east/>

わくわくファクトリー グリコピア CHIBA



ご見学の予約
グリコピア CHIBA **予約制**
お問い合わせ
TEL 04-7127-3355
※見学には予約が必要です。
電話受付時間 開館日の9:00~16:00
(休館日:毎週金曜日／お盆休み／年末年始)

〒278-0041 千葉県野田市蕃昌新田字溜台10番地
<https://www.glico.com/jp/enjoy/experience/glicopia/chiba/>

すこやかな毎日、
ゆたかな人生

Glico



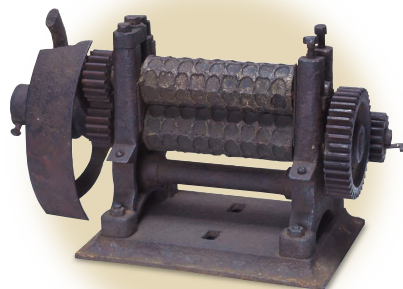
江崎グリコのルーツが見える

江崎記念館

Glico Museum

近代化産業遺産認定

大阪市 都市景観資源登録



グリコのハート型のローラー
(1922)

江崎グリコ株式会社

食文化を通じて感動を創造する

企業ミュージアム「江崎記念館」は1972(昭和47)年3月、創立50周年記念事業の一環として社員に創業の志を伝え、社業の発展に寄与するため設立したものです。

館内には創業以来のGlicoグループのあゆみに関する資料、商品・販促品をはじめ、創業者・江崎利一ゆかりの品々を展示しています。展示品の一部は、国の近代化産業遺産に認定されています。

存在意義(パーパス)

すこやかな毎日、ゆたかな人生

ありたい会社の姿(ビジョン)

Glicoグループは人々の良質なくらしのため、高品質な素材を創意工夫することにより、「おいしさと健康」を価値として提供し続けます。

グリコの軌跡をたどる旅へ

子どもたちの健康を想う心が 創意工夫や不屈邁進の努力により 「栄養菓子グリコ」を生んだ



創業時にグリコを練ったしゃもじ(社宝)

すべてはグリコーゲンとの出会いから始まった

1919(大正8)年春、創業者・江崎利一は佐賀県有明海で、一生を左右する大きな出来事に出会いました。岸辺で漁師たちが、中国に輸出する牡蠣を大きな鍋で煮ており、煮上がると煮汁をざあと捨てていました。それを見て、薬業新聞に「牡蠣には栄養素グリコーゲンが多量に含まれている」という記事が書かれていたのを思い出し、天啓のようにひらめくものがありました。そこで利一は、その煮汁からグリコーゲンを抽出し、病気の治療より予防に役立てようと考え、国民の体力・健康づくりを目的として、栄養菓子グリコを創製しました。グリコーゲンを含むことからグリコと名づけたのです。ここでは、ゴールインマークの成り立ちと変遷、創業時代の工場模型、ハート型ローラーや真空釜などを展示しています。

History of products

赤い箱に、ゴールインマーク キャッチフレーズは「一粒300メートル」

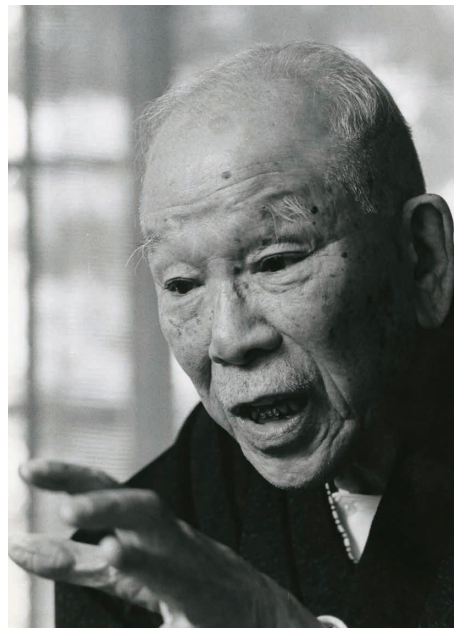
創業者・江崎利一は、商品名(グリコキャラメルではなくグリコ)、形状(ハート型)、意匠(赤い箱)、商標(ゴールインマーク)、キャッチフレーズ(一粒300メートル)を用意周到に決めたくて、佐賀から大阪に居を移しました。そして、1922(大正11)年2月11日三越百貨店にて「栄養菓子グリコ」の発売が開始されました。ここでは、栄養菓子グリコ、ビスコをはじめ、アーモンドチョコレート、ポッキー、ブリッツなど当社を代表する商品を紹介しています。



History of advertising

時代を先取りする広告戦略のすべて

Glicoはいつも楽しいことを考えていたい…。数々の広告やキャンペーンは、その心をいきいきと表現し、先へ先へとわくわくする楽しさを届けてきました。ここでは、創業時からのユニークな新聞広告、タレントを起用したテレビ広告や引換賞品などを展示しています。なかでも、映画付きグリコ自動販売機(複製)は、1931(昭和6)年に10銭を入れると、音楽と映画が流れ「グリコ」とおつり2銭が出てくるという画期的な仕掛けで東京を中心に100台設置され行列ができるほど人気を呼びました。



創業者 江崎 利一

Ezaki Ri-ichi, the company's founder (1882-1980)

創業の時代

商品の歴史

広告の歴史

History of the Glico toys

子どもたちのココロとカラダの健康を願って、お菓子と豆玩具(おもちゃ)をひとつの箱に「子どもにとって、食べることと遊ぶことは二大天職」と考えた創業者・江崎利一は、発売初期に入れた絵カードをヒントに栄養菓子に豆玩具を入れて、ココロとカラダの健康を一つの箱に収めることを思いつきました。豆玩具は今でも親しまれ続けています。ここには、創業時から現在までの約4,000点を展示しています。



おもちゃの歴史